



# 7月の園だより

令和5年6月27日  
第一早蕨幼稚園  
園長 生田 増美

沖縄県は間もなく梅雨明けというニュースが入ってきました。一方で、奄美大島は大雨で大きな被害の真っただ中です。大雨や地震、自然災害の脅威にさらされていると感じずにはいられないこの頃です。

先日の大雨で、岡崎市内でもたくさんの方が被害にあわれました。実は、年少組が出かけたブルーベリー農園も大きな被害があったそうです。膝上くらいまで水が入り、下方の実は全滅。おかげで、現在は営業停止状態だそうです。ブルーベリー狩りの日は、子どもたちのために貸し切り営業をしてくださったそうなのです。味も例年に比べると少し水っぽく、すっぱい味で残念だったなという職員の声もありました。でも、そんな大人たちの事情には全く関係なく、とびきりの笑顔で「おいしかったー」と帰ってきた子どもたち。やっぱりこんな時でも癒しと未来への希望だなあ…とつくづく思ったのでした。

## ありがとうって言ったのに！！

「園長先生！！」ずいぶんと怒った顔で職員室に駆け込んできたS君。自分の気持ちを言いたくて伝えたくて、懸命に状況を話してくれます。でも、私には、なかなか状況が見えてきません。S君は、普段はどちらかと言うとわんぱく君。女兒からは理解してもらえないことが多いようです。自分の思いがしっかりあるのですが、それを友達や周りの人が納得するように伝えることが得意ではありません。「なんでS君はあんなことしてるの」「S君、ちゃんとしてよ」と思われてしまうことが多いのです。ゆっくりゆっくり話を聞いてみると、その時々思いがあるのですが、周りの人たちだっていつもS君のペースで話を聞いたり、合わせたりは難しいのです。もちろん、S君も周りの状況に合わせて、ルールを守らなければならない時もあります。でも、今回はS君の伝えたい気持ちがとてもとても強かったのです。職員室に駆け込んできて、何度も話し続けます。S君の言葉を要約すると「僕が紙？をとってあげたら〇ちゃんありがとうって言ってくれた。でも、直ぐにあっかんべーって、ペロをだしてきたんだよ。ありがとうって言ったのに！」私は、直ぐには状況が呑み込めず、何度か言葉を変えて聞きなおしました。そして、せっかく親切にしたのに、あっかんべーをした〇ちゃんへの怒りなんだと理解したのです。〇ちゃんがあっかんべーをしたことに理由があったのか、深い意味はなかったのかはわかりません。そこで、私は、S君の怒りに寄り添って「そりゃあ、嫌だよ。せっかく紙をとってあげたのに、あっかんべーはされたくないよね」と声をかけてみました。しかし、S君の表情は不満げなまま。「ありがとうって言ったのに」と繰り返します。

その時、気が付いたのです。S君は怒っているのではないのだと。親切にしたら「ありがとう」と言ってもらえて、心が弾み、とても幸せな気持ちになった瞬間、あっかんべーによって、どーんと突き落とされた気持ちになったのだと。S君の心に渦巻いているのは、本当は怒りではなく、悲しみなのだ…。

よくよく考えてみると、私たちは悲しみや寂しさを表現するのがあまり上手ではないような気がします。怒りにまかせて怒っている時も、気持ちを整理してみると、わかってくれないことや、どうにもならないことへの悲しみが隠れていることがあります。そして、悲しみは自分自身が立ち上がり、自分で乗り越えなくてはなりません。反対に、怒りは人にぶつけて、人のせいにして逃げたり、発散したりすることができます。今思い返すと、子育て中に、我が子に怒っている時は、思いをわかってくれないことへの悲しさや寂しさ？そんな感じだったような気がします。冷静になって、子どもの寝顔を見ながら悲しくなって涙したことも、何度もあります。

今回のS君は、本当にりっぱでした。「〇〇ちゃんは、ありがとうって言ったのに」と…悲しい気持ちに向き合って懸命に伝えてくれました。そして、隠れている悲しみに寄り添い、一人で乗り越えなくても良いのだと伝えられる幼稚園でありたいと思わせてくれました。こちらこそ、一生懸命伝えてくれたS君に「本当にありがとう」の時間になりました。